

ベルマーク新聞 8月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

手先の器用さが生きたボランティア

兵庫・三木市立三木東中が「絵本を届ける運動」に参加



①自分が完成させた絵本を持って ②はさみを器用に使い、集中して取り組む ③授業後、アジアの国々を調べる生徒たち。絵本づくりが、興味をもつきっかけになったよう

兵庫県の三木市立三木東中学校（坂田直裕校長、生徒 278 人）の特別支援学級「わかば学級」「つばさ学級」に通う生徒 5 人が 7 月 8 日、「絵本を届ける運動」に参加しました。アジアの子どもたちに絵本を届けるため、日本語の絵本に現地語の翻訳シールを貼るボランティア活動です。シャンティ国際ボランティア会のこの活動を、ベルマーク財団はソフト事業「教育応援隊」のプログラムのひとつとして支援しています。

「手先の器用な子たちです。みんなで何かボランティアに取り組みたいと思いました」と申し込んだ理由を説明してくれたのは、わかば学級の担任を務める渋谷優美先生です。ていねいさや正確さが求められるこの活動では、手先の器用さは大きな強みになります。坂田校長も「器

用な手先を使い、集中力を生かして取り組んでほしい」と授業前に話してくれました。加えて、先生方にはもう一つねらいがありました。それは「人の役に立つ嬉しさを実感し、自己肯定感を高めること」。翻訳絵本を仕上げ、厳しい環境で暮らす子どもたちの役に立つことが、生徒たち自身の心の成長にもつながるとの考えです。

授業はまず、シャンティから届いた絵本のタイトルの紹介から始まりました。次に、どの絵本をどこの国に贈るのか、地図を見ながら学びます。今回の贈り先はカンボジア、ラオス、ミャンマーです。

絵本は、参加人数と同じ 5 タイトルあり、各自担当する絵本を決めて取り組むことになりました。シールには上下があること、貼る場所が分からなくならな

いよう 1 枚ずつ扱うことなどの注意事項を確認したのち、作業の始まりです。

絵本によってシールの大きさに違いがあります。大きいシールは、シワなく貼ることに気をつけなければなりません。反対に小さいシールがたくさんある本は、切り貼りの回数が増え、作業量が多くなります。

仕上げに、絵本の最後に現地語で自分の名前を記すと完成です。生徒たちに感想をたずねると「初めて知ったのは、贈り先の国の場所。地図で見ると思っていたより日本から近かった」「辛いことがあっても、この絵本を読むときは楽しい気持ちでいてほしい」と話してくれました。

◇

ベルマーク活動が活発な三木東中学校は今年 6 月、これまで集めた累計点数

が 50 万点の大台を超えました。ボランティア委員会が全校生徒に呼びかけてマークを回収し、特別支援学級の生徒たちが自立の授業の一環として、仕分け・集計するという流れです。この日のように、ベルマークの整理にも黙々と取り組むそうです。さらに最近、貯めたベルマーク預金で冷水機を注文しました。現在到着を楽しみに待っているところで、「誰が一番最初に水を飲むか」という話題で盛り上がっているとのこと。

参加してくれて
ありがとう!!



「スポーツ振興を通じた社会貢献」の一つとして

ミズノスポーツ振興財団から 200 万円の助成

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団(水野明人会長)から 200 万円の助成をいただきました。振興財団の葦沢智之事務局長から 6 月 23 日、ベルマーク財団の福島範彰事務理事に目録が手渡されました。

ベルマーク財団への助成は 1971 年から 55 年連続で、累計 9950 万円にのぼります。ミズノ創業者である水野利八氏の遺志で水野スポーツ振興会(振興財団の前身)が設立された翌年から始まりました。

振興財団は、競技団体やスポーツに関する研究への助成事業、指導者を表彰する「ミズノスポーツメントール

賞」やノンフィクション・報道を対象にした「ミズノスポーツライター賞」の褒賞事業など、さまざまな取り組みをしています。

ミズノは 1906 年の創業以来、「より良いスポーツ品とスポーツの振興を通じて社会に貢献する」を経営理念にしています。ベルマーク運動が始まった当初からの協力会社です。ベルマーク預金で購入できる教材や教育備品などを取り扱うほか、ベルマーク財団の「教育応援隊」で「走り方教室」を開催しています。今回の助成金は走り方教室の実施費用などに活用する予定です。



目録を手にするミズノスポーツ振興財団の葦沢事務局長(左)とベルマーク財団の福島事務理事